いつでもだれでもお気軽に

新飯田地区生涯学習推進連絡会議 まち角図書館

昨年十一月、新飯田地区の円通庵わきにまち角図書館が設置されました。図書館の大きさは縦二メートル、横一・八メートル。返却期間を特に定めず、書棚の中からいつでもだれでも自由に本を借りることができる無人図書館です。

新飯田地区生涯学習推進連絡会議では、本に親しむことを通じて心豊かな人づくりを行おうと平成六年から図書館の設置を計画。昨年の二月から地区公民館たよりで本の提供を呼び掛け、昨年九月までに約二百冊の本が集まりました。提供された本の種類は、児童文学など子供向けの本をはじめ、実用書、エッセイ、参考書などさまざま。その後も図書館が設置されたことを聞いて早速子供向けの世界名作全集五十巻を寄贈してくれた人もいるなど地区の人たちの協力で蔵書が増えています。

「いつでもだれでも自由に気軽に利用し、本に親しんでもらいたい」と同連絡会議会長の白野庄吉さん。良寛様と深い交流のあった有願禅師が住職を務めた円通庵に設置されたことから「子供たちも有願禅師にあやかってくれれば」と話しています。同会議では、今後、下中村の天満宮内に二台目の図書館も設置する予定とのこと。家庭で眠っている本の提供を呼び掛けています。提供してくれる人は新飯田地域生活センター（☎374・2001）へ。

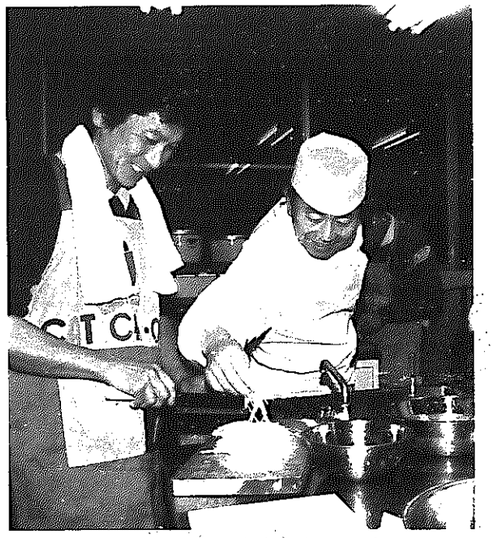
イナダ一本を丸ごと調理

白根地区公民館男の料理教室

「もっと包丁全体を使ってください」。講師の指導を受けながら慣れない手付きで包丁を握るお父さんたち。十一月十八日、小林地域生活センターで開かれた男の料理教室での一場面です。男の人にも楽しく料理を覚えてもらおうと白根地区公民館が開催したこの教室。市内の男性十五人が参加しました。

この日の材料はブリの若魚、イナダ。エプロン姿の参加者は、講師の袖山哩紅司さん（哩紅司グループ代表取締役）の指導を受けながら、三枚におろして刺身を取ったり、がらを煮てみそ汁を作ったり、刺身のツマ用に大根の桂むきをしたり。イナダ一本を余すところなく賞味しました。

釣りが趣味というある参加者は「同じ刺身でも場所によって包丁の入れ方が違うとは知りませんでした。とても楽しかったです。今度は釣った魚を自分でおろして家族に食べさせてあげるつもりです」と意欲を見せていました。


▲講師の指導を受けながら、刺身のツマをつくる。これがなかなか難しい。

世界的ヘアーデザイン誌に自作写真掲載

栗田芳隆さん（一の町）

一の町で理容業を営む栗田芳隆さん自作の写真が、世界的なヘアーデザイン雑誌に掲載され、業界で注目を集めています。掲載されたのは、ロンドンのドーワプランニング発行のメンズパッションの冬号。各国から選ばれた二十数点の中に、日本人でただ一人入りました。

ヘアーデザインの分野では世界的な業界誌だけに、掲載される作品はすべてプロの手によるもの。プロのヘアーデザイナーがカメラマン、モデル、スタイリストとチームを組んで製作した作品ばかりです。そのような中、栗田さんだけはすべて自前で作り上げました。「お客さんにモデルになってもらい、自分でデッサンをかいて自分で撮りました。スタジオも店の中に簡易的に設けて。すべて一人でやったから、かえってイメージどおりできたのかもしれないですね」と笑います。

「山が好きでね。風景を撮りたくて写真を始めたんです」とカメラとの出会いを語る栗田さん。技術については「ほんの独学で覚えただけですから」と謙遜するものの、二科展で秋山庄太郎賞を受賞した経験もあり、その実力は証明済み。単なるラッキーではありません。

「モデルになってくれた人の魅力がうまく出せたと思います。その人の持つ隠れた良さを引き出すことが大切だし面白い。やりがいがありますね。これからもいい作品を作りたい」と意欲いっぱい。「最近、子供が私の真似をしてデッサンしたりするんですよ。うれしいですね」と笑う優しいパパです。

マザー・テレサの心を学ぶ

臼井小学校いきいき合同部会講演会

臼井小学校では昨年十二月十一日、高学年を対象に「マザー・テレサの世界」と題した講演会を行いました。これは同校が子供たちの思いやりの心を育てようと行っている、いきいき合同部会の活動の一つです。

講師は、昨年夏、インドで直接マザー・テレサに会見した経験を持つ内山則男さん（戸石新田）。新津市の市民海外派遣研修を利用し、カルカッタの福祉施設などを回ってきました。

「マザーは世界の母と呼ばれるほど、孤児や病気の人たちを何万人も救った人。十二歳のときに恵まれない人たちを救おうと決意し、今でも救援活動を続けている素晴らしい人です」とマザーの生き方、偉大さを熱っぽく語る内山さん。「マザーは『人間がこの世で一番悲しいことは必要とされないこと』と言っています。いじめの問題などはまさにこれに当てはまると思いませんか」と強く訴えました。

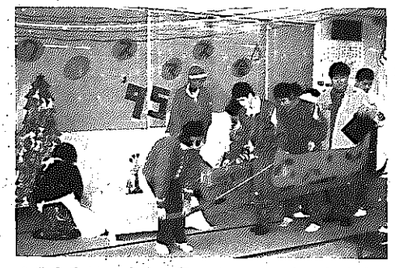
講演後、子供たちからは「マザーの行動には感心する。私も今後、ほんのささいなことからでもボランティアをしていきたい」という声が聞かれました。

楽しい時間にこぼれる笑顔

クリスマスお楽しみ会

昨年の十二月には、二つのクリスマス会が開かれ、この日を楽しみにしていた人たちの顔に笑顔がこぼれました。

十二月十三日、通所作業所「おたまじゃくしの家」で開かれたクリスマスお楽しみ会には、BSNラジオでおなじみの大倉修吾さんらが訪問。通所生と一緒に歌を歌ったりして、楽しい時間を過ごしていました。


▲おたまじゃくしの家 クリスマスお楽しみ会

十七日には、手をつなぐ親の会と肢体不自由児者父母の会によるクリスマスお楽しみ会が開かれました。お楽しみ会では、白根・大通小、一中による出し物が行われたほか、昨年開設されたしろねふれあい工房の人たちも歌を発表。参加者たちの大熱演に観衆からは大きな拍手が送られていました。

▲手をつなぐ親の会・肢体不自由児者父母の会 クリスマスお楽しみ会